

事例 No.33

キックバック
チェーンソー

空洞の広葉樹を切り進めていたところキックバックしてバランスを崩し、チェーンソーの刃が当たった

災害概要

- ▶原因：キックバック チェーンソー ▶発生月：8月 ▶FW研修：2年目
- ▶年齢：47歳 ▶受傷部位：左前腕 ▶傷病名：切創
- ▶作業内容：皆伐、広葉樹伐木

発生状況

傾斜25度。民家の上部の広葉樹の伐木作業（樹高7m、胸高直径22cm）。
股分かれであり、中が空洞の広葉樹木をチェーンソーで切り進めていたところ、
空洞の近くの硬いところでキックバックが発生。
防護ズボン、防護ブーツを着用。バランスを崩し、左手にチェーンソーの刃が当たった。



原因

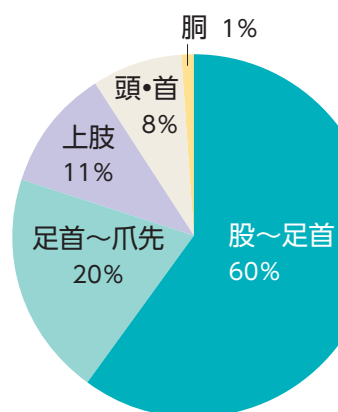
キックバックの発生とバランスを崩したことによる切創。

再発防止対策

- 股分かれの広葉樹にはあて、腐れなどに起因する硬い部分と柔らかい部分がある。
- 伐木作業中の割れ、裂け、キックバックには特に注意が必要。

● ソーチェーンが当たった被災位置の分布と、分布割合 ●

被災のほとんどは身体の前面であり、股～足首にかけてが被災件数の60%を占めています。



(出典：森林利用学会誌22巻4号「チェーンソー作業におけるソーチェーンによる被災状況と防護服による災害防止効果」)

枝払いで次の枝にガイドバーを移動するときキックバックを 起こし、左足に接触し切創を負った

災害概要

- ▶原因：キックバック チェーンソー ▶発生月：11月 ▶FW研修：1年目
- ▶年齢：36歳 ▶受傷部位：左足親指 ▶傷病名：切創
- ▶作業内容：間伐、枝払い

発生状況

傾斜10度。尾根部にある幅員3mの作業道上。直径30cm樹高16mのヒノキ伐倒木のチェーンソーでの枝払い作業。

ウインチ付きグラップルで作業道の横断方向に集材された木の側面に立ち、左足を幹に乗せて、元口から先端部方向へ枝払いを実行。

1本目の枝から次の枝にガイドバーを移動するときキックバックを起こし、研修生の左足に接触し甲親指の筋に切創を負った。



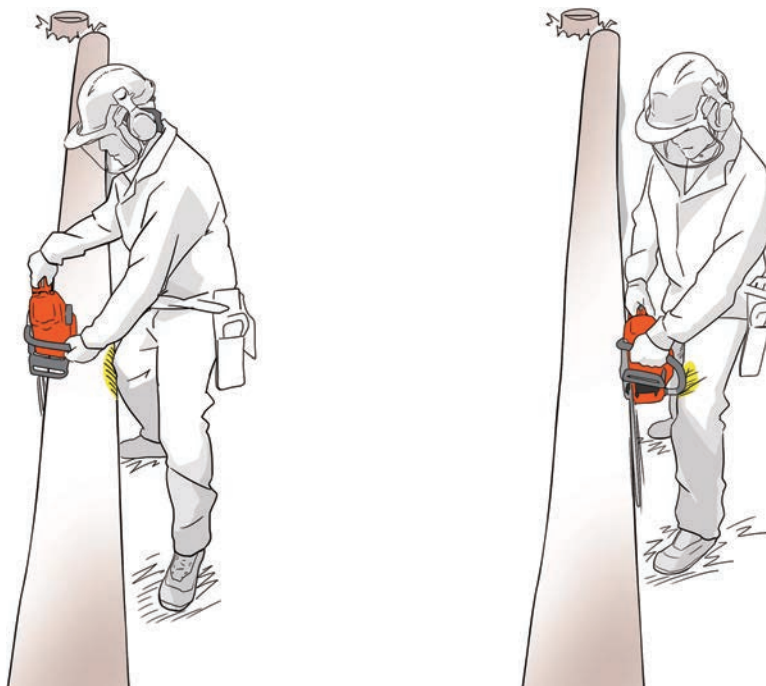
原因

枝払い中のチェーンソーのキックバック。

再発防止対策

- 枝を切っている最中はガイドバーの先端が木や他の枝に接触しないようにする。
- キックバックの危険のある先端で枝を切らない。
- 安全な姿勢を確保する。
- 防護ブーツの着装。
- グラップルのオペレータは伐倒木を集材・整理する際に、枝払い作業がしやすいように置き方を工夫する。

作業姿勢は、両足を開いて安定の良い姿勢で立ち、体に寄せてチェーンソーを操作します。枝払い作業中に、足の位置を動かすことが、足にソーチェーンが触れる事故につながるため、足が安定していることがとても重要です。リスクの回避のために、足の位置(前進する)は、作業者とチェーンソーガイドバーの間に枝払い対象の材がある(チェーンソーのガイドバーが材の向こう側にある)時のみ、位置を変えるようにします。



枝払いの作業姿勢

枝払いしたところキックバックが発生し、甲ガード地下足袋を突き破り切傷を負った

災害概要

- ▶原因：キックバック チェーンソー ▶発生月：12月 ▶FW研修：1年目
- ▶年齢：26歳 ▶受傷部位：左足甲 ▶傷病名：切創
- ▶作業内容：間伐、枝払い

発生状況

傾斜30度。切捨間伐の枝払いを実施。

直径20cmの木を斜面上側から枝払い中に、チェーンソーバー上側を使って枝払いしたところキックバックが発生。

幹に乗せていた左足の甲の内側に刃が接触して、甲ガード地下足袋を突き破り5cm程度切傷を負った。

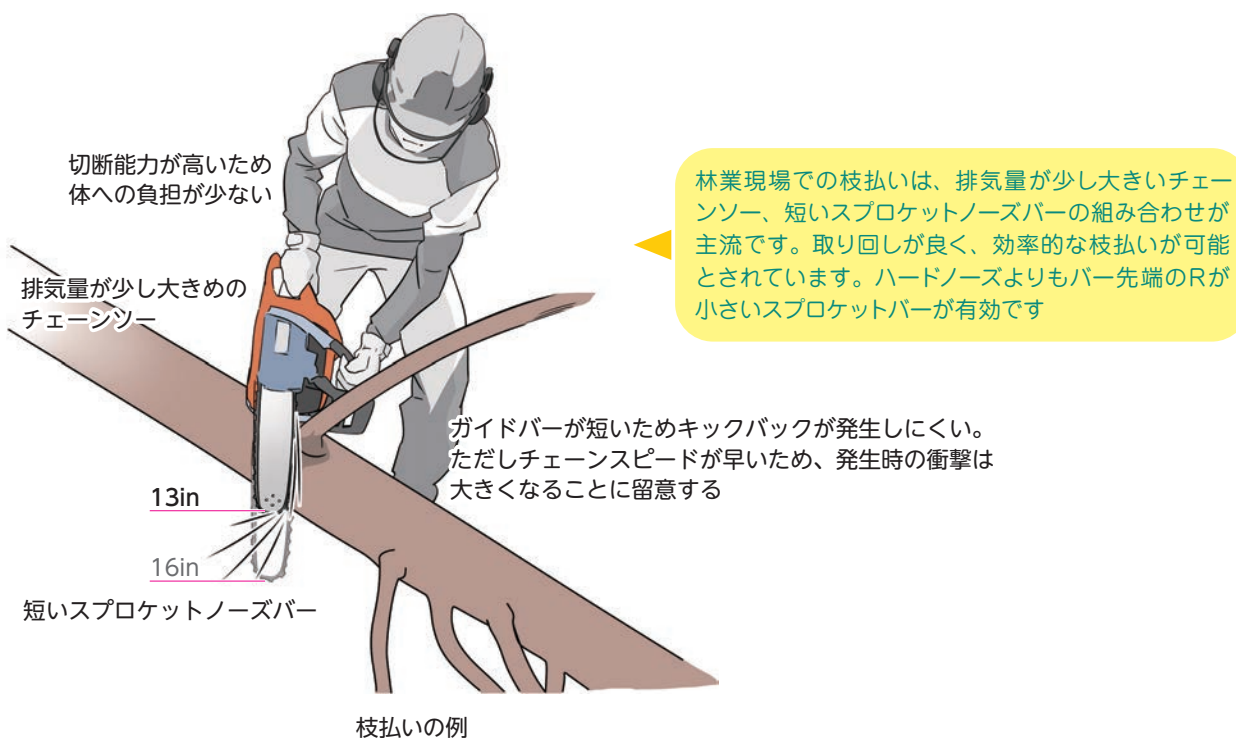


原因

枝払い中のチェーンソーのキックバック。

再発防止対策

- ガイドバーの先端で枝を切らない。
- ガイドバーの跳ね上がりを想定しバーの延長上に体を置かない。
- バーの下を使い安定した姿勢で作業する。
- 防護ブーツの着装。



チェーンソーを片腕のみで操作していた時、キックバックし左足甲部に刃が当たった

災害概要

- ▶原因：キックバック チェーンソー ▶発生月：7月 ▶FW研修：2年目
- ▶年齢：46歳 ▶受傷部位：左足甲 ▶傷病名：切創
- ▶作業内容：造林、地拵え

発生状況

傾斜35度。皆伐後の地拵え作業。処理木直径20cm長さ2m。草が生い茂っており、足元の不安定な状態。

地面の木を片付けようとチェーンソーで細断していた。チェーンソーを片腕のみで支えて作業していたため、草に隠れていた切り株に刃が当たりキックバックし、そのまま左足甲部にチェーンソーの刃が当たった。

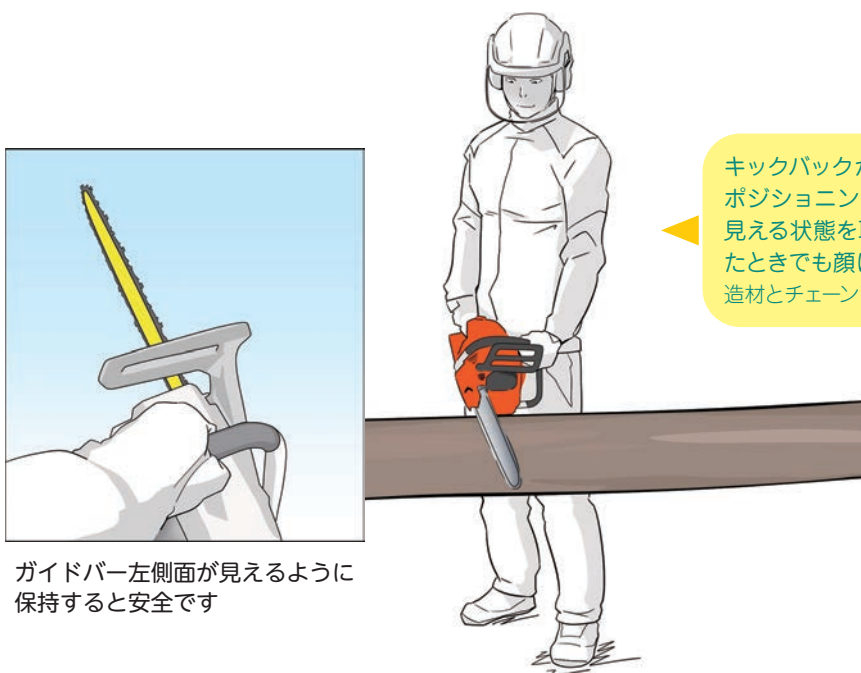


原因

地拵え中のチェーンソーのキックバック。

再発防止対策

- 作業にあたっては片手での作業を避ける。
- チェーンソーの先はキックバックが発生しやすいため、姿勢、持ち方などの安全な体制を常に確保する。



ガイドバー左側面が見えるように保持すると安全です

キックバックが起ころしてもチェーンソーが当たらないようなポジショニングで作業します。右目でガイドバー左側面が見える状態を取ることが重要です。万が一、キックバックしたときでも顔に当たりません（参考：石垣正喜「改訂版 伐木造材とチェーンソーワーク」全国林業改良普及協会）

チェーンソー操作の基本姿勢（横置きした丸太を切る）